

一般社団法人 原発事故被災動物と環境研究会
〒107-0052 東京都港区赤坂6-18-11 ストーリア赤坂103
TEL:03-5549-2561 FAX:03-5549-2562



福島第一原発被災地域における 長期被ばくが牛の生体に及ぼす影響調査・研究経過を公表

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会 特別シンポジウム

「生きものの記録」福島の再生と未来に向けて 東日本大震災・福島原発事故から5年 長期低レベル放射線の影響を考える

主催：特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会
共催：一般社団法人 原発事故被災動物と環境研究会

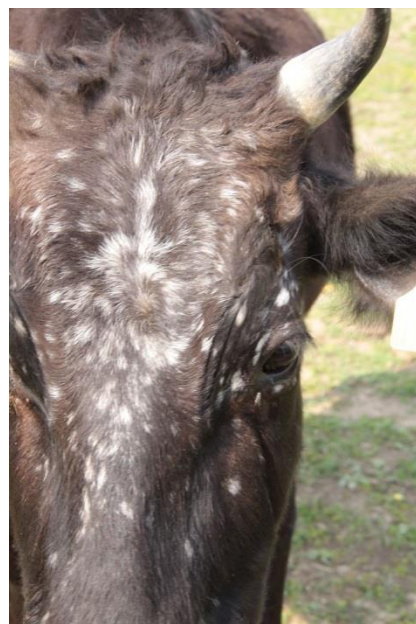
[日時] 2016年2月11日(木・祝) 開場12:00 開催13:00~17:00
[会場] 東京大学農学部 弥生講堂

2011年3月11日に発生した東日本大震災と、それともなう東京電力福島第一原発事故によって、前者では多くの人命が失われ、後者では多くの動物の生命が奪われました。原発事故発生当時、原発から半径20キロ圏内に飼育されていた牛は推定3,500頭。警戒区域への立ち入り禁止や殺処分指示によって大半の牛は餓死したり殺処分されたりしましたが、牛を家族のように飼育してきた農業者にとって「家族を犬死させる」という指示のように思えたとしても不思議ではないのです。

わたしたち、原発事故被災動物と環境研究会では「復興支援」を目的に掲げ、東日本の大学の研究者を中心に、特に原子力災害による動物への影響が大きかった福島県において、低レベル放射線の環境下に生きる牛の健康状態などについて、地元畜産農家と臨床獣医師とともに、震災後より原発20キロ圏内にて、前例のない研究・調査を継続しています。

チェルノブイリ原発事故の際も、世界から注目が集まり、多くの研究が行われました。しかし低レベル被ばくの影響について、議論はあるものの科学的データは残されていません。福島は後世のため重要な研究の場として注目されており、特に今回、大きな動物の放射性物質の体内分布、体内動態のデータが世界で初めて得られています。

今回のシンポジウムでは、本研究会がこれまでにやってきた約4年に及ぶ調査・研究の経過を公表し、被災地で力強く生きる牛の存在および継続研究・調査の意義を世に問いたいと考えています。是非、会場に足をお運びいただきますようお願いいたします。



旧警戒区域内の黒毛和種牛(繁殖和牛)にみられている白斑。原因を解明するために、研究チームでは震災後より調査を継続している。〔大熊町・池田牧場〕

主催：特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

共催：一般社団法人 原発事故被災動物と環境研究会

「生きものの記録」福島再生と未来に向けて

東日本大震災・福島原発事故から5年 長期低レベル放射線の影響を考える

【同時開催 写真展・ポスター展 『涙を力に ～命の数だけ答えがある～』】

2016年 **2月11日** 木・祝

開場12:00～
開催13:00～17:00
[懇親会]17:00～

会場 **東京大学農学部 弥生講堂** 文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内

参加無料

どなたでも
ご参加いただけます

**当日参加も
可能です**

プログラム

*講演者、講演タイトルは変更になる場合がございます。

13:10～13:40

| **福島第一原発事故汚染地帯で生き物を調べる理由 ～生態系の特徴の攪乱～**

東京大学大学院農学生命科学研究科 生圏システム学 准教授 石田 健

13:45～14:05

| **福島第一原子力発電所事故によるツバメの巣の放射性セシウム汚染状況**

公益財団法人 山階鳥類研究所 研究員 岩見 恭子

14:10～14:30

| **緊急避難的保護収容施設における犬猫の内部被ばくについて考える**

福島県動物救護本部 三春シェルター 元管理獣医師 渡邊 正道

14:35～14:55

| **放射線被ばくがヤマメに与える影響**

東北大学大学院農学研究科 海洋生命遺伝情報システム学 准教授 中嶋 正道

14:55～15:10 休憩

【**原発事故被災動物と環境研究会**】

15:10～15:50

| **原発事故から5年、今を生きる牛たちが教えてくれるもの**

北里大学前副学長 伊藤 伸彦

北里大学獣医学部 獣医放射線学 教授 夏堀 雅宏

岩手大学農学部共同獣医学科 獣医薬理学 教授 佐藤 洋

■ **パネルディスカッション**

15:55～16:10

| **海外から見た原発事故、福島その後**

一般財団法人日本再建イニシアティブ 主任研究員兼ジャーナリスト・イン・レジデンス Martin FACKLER

16:10～16:50

| **「福島の再生と未来への課題」**

※モデレーターおよびパネリストは、後日公開いたします。

懇親会

【**参加費無料**】 17:00～ 【どなたでもご参加いただけます】 ※参加希望者は2016年2月1日(月)まで申してください。
シンポジウム終了後、講演者を交えた懇親会を同会場にて開催します。

【お問い合わせ】 原発事故被災動物と環境研究会 事務局 電話：090-2023-9353 担当：おおたに info@liffn.jp

主催：特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

共催：一般社団法人 原発事故被災動物と環境研究会

「生きものの記録」福島の再生と未来に向けて

東日本大震災・福島原発事故から5年

長期低レベル放射線の影響を考える

開催日時

2016年

2月11日〔木・祝〕

開場12:00

開催13:00～17:00

開催場所

東京大学農学部

弥生講堂

東京都文京区弥生1-1-1
東京大学農学部内

【交通案内】

地下鉄

東京メトロ 東大前駅（南北線） 徒歩1分

東京メトロ 根津駅（千代田線） 徒歩8分

都バス

御茶ノ水駅（JR中央線、総武線）より
茶51駒込駅南口又は東43荒川土手操車所前行
東大（農学部前バス停）下車徒歩1分



シンポジウム参加申込 FAX:03-5549-2562

*FAXの場合は切り取らずにお送りください。

(ふりがな) 氏名または団体名	
参加人数	シンポジウムへの参加 () 人 ◆ 懇親会への参加 () 人
FAXまたはE-mail	

参加申込

参加申込書をご記入の上、FAXまたはE-mailによりお申し込みください。

※ 参加申し込み受付票は発行しません。

※ ご記入いただいた情報は、本シンポジウム以外の目的で使用することはありません。

【懇親会】参加費無料

※ 参加希望者は2月1日(月)までにご連絡願います。